



オプションですか

総主事 大田裕作

世界宣教はオプションでしょうか。昇天前に主が語られた大宣教命令は選択科目なののでしょうか。あの主のお言葉を命令として受け取った人々によって、極東の日本で福音が聞けたのではないのでしょうか。

近代宣教の父ウィリアム・ケアリーは産業革命前夜のイギリスに生まれました。16才から靴職人の仕事に明け暮れながら独学で聖書を学び、24才で信徒牧師となります。やがて海外宣教に強い重荷を覚えた彼は宣教の責務を牧師仲間に訴えます。その反応は有名です。Young man, sit down. When God pleases to convert the heathen, He will do it without your aid or mine. (若者よ。お座りなさい。神が異教徒の回心を望み給うならば、あなたや私の助けなしにご自身でおやりなさるのだ。)



韓国・平和展望台にて

当時彼の属するバプテスト教会では極端な予定論が信奉されており、大宣教命令は使徒たちの時代に終わったものと信じられていました。にも拘らず、彼は続く教派の大会でイザヤ書 54 章 2-3 節を紐解き、歴史に残る言葉を語りました。Expect great things from God; attempt great things for God. (神に偉大なことを期待し、神のために偉大なことを企てよ。) 彼に動かされ、賛同し支援する牧師仲間の多くも自給伝道者でした。そうした逆風の中 1793 年インドに出帆。幾多の妨害、苦難、試練を経ながらもインド東部における目覚ましい働きを前進させました。そうした彼の信仰の足跡が大西洋の両側の国、イギリスとアメリカを揺り動かし、19 世紀を「宣教の偉大な世紀」としました。

鋭いチャレンジです。私たちの置かれている日本の教会の現状も決して世界宣教に追い風ではありません。しかしそれだからこそ主に期待するのです。主に叫び求めずになし得ることなら、大したことではありません。主に賭けなければなしえないことこそ、祈り叫ぶにふさわしいことです。

宣教は主が教会に与えた必須科目です。この単位を取らなかったら卒業できません。世界宣教が達成されなかったら、教会の完成はありません。これこそ主の再臨に備える道備えです。マラナタ！



明るく輝こう

在原 繁・津 紀子
アルゼンチン

「彼らが主を仰ぎ見ると、彼らは輝いた。」(詩篇 34 篇 5 節)
新春を故郷(御殿場市)で迎えることができ喜び一杯でした。北風吹きすさぶ厳寒のお正月は、歳をとった今でも「モ〜いくつ寝ると…」と、指折り数えるほど心待ちする私達です。しかし時代は変わり、昔懐かしい風景は消えました。1 月 23 日、「アルゼンチン宣教」は丸 35 年の行程を走りました。時代の推移を痛感する私たちです。

昨年末あたりからお陰様でデビュテーションにお招き下さる教会数は徐々に増え始めています。コロナによる規制があるとは言え、諸教会には活気が漲っており、信徒方の眼差しは真剣そのものです。それは、「飢え渇き」という霊的危機感から来るものではないでしょうか。集会後の祈りも熱いものでした。

12 月最初の日曜日、私たちにとって懐かしい教会・横浜市

緑区の「K 聖書教会」をお訪ねすることができました。アルゼンチン宣教開戦前のその年の 5 月、デビュテーション最初がこの K 教会だったのです。開拓時の当時、礼拝は一握りの信徒を数えるにすぎません。しかし、出席者は「主の御顔」を仰いでおられたからでしょう。宣教師夫妻をはじめとする信徒たちは、皆そろって光り輝いていました。35 年の年月が過ぎたその日、私はおよそ 8 年ぶりの訪問を果たすことができたのです。闘いを重ねた教会は大きく成長を遂げ、会堂はほぼ満員でした。最前列に座る私は、賛美を耳にしながら当時を思い感涙していました。K 教会の信徒方の信仰とは、それは「主の御顔」を仰ぎ見る熱き愛。そして、信仰生活の中央に「聖書信仰」が確立されているのでしょう。

同じ 12 月半ばの聖日、私たちは兵庫県の I 西宮教会を訪ねること許されました。1965 年、S 師により開拓された教会は「発展的移転」という不思議を重ねながら群れは成長。すでに 3 度の会堂建設を遂げながら大きく成長しておられました。「世界宣教」と「弟子化」を掲げた教会の成果の大きさに、思わず息をのみました。信徒方の力強い輝きは、教会全体が「神の国」に活きているからでしょう。(繁)



与える教会へ

井野 葉由美
ドイツ

宣教師は誰もビザの問題を抱えています。私の以前のドイツ滞ビザには「ハンブルグ日本語福音キリスト教会で働いている限りにおいて有効」という但し書きがついていました。それで、2022 年から働きが南ドイツのミュンヘンに移った時点で、新たにビザを申請しなければならなくなりました。昨年 1 月に申請したのに手続きが進まず、結局仮ビザを取得して、昨年 12 月半ばに一時帰国しました。正式なビザの取得のために祈りいただけると嬉しいのです。

今回の帰国の目的の一つは、12 月 25 日に行われた、母教会である奈良福音教会の創立 70 周年記念礼拝でした。コロナの影響で、3 年半ぶりの帰国となりましたので、その間に新しく教会に来られた方もあり、初めてお会いする方も多くありました。母教会では、毎月 1 回礼拝の中でドイツ宣教のために祈る

日を設け、1 分半ほどの短いビデオレターを見て、祈ってくださっています。それで、初めてお会いする方も「いつも祈っています」と声をかけてくださり、教会として支えてくださっているのを感じて、大いに励まされました。宣教報告に伺った各地の教会でも「ニュースレター読んでいます」、「今日の日を楽しみにしていました」と温かく迎えてくださり、篤い祈りをささげてくださいました。こういう表に出てこない一人一人の祈りがつながって宣教に結びついていることを深く覚えます。私にとって、福音を分かち合えることは喜びであり、楽しい働きをさせていただいているのですが、皆様方の献身的な祈りこそ、すなわち宣教であると日々感じています。それが無ければ、私は恐れに押しつぶされてしまうでしょう。

このような日本からの愛と祈りを、ドイツ・ヨーロッパの皆さんに届けていくことも私の役割です。海外日本語教会は、これだけ多くの愛を受けてきていますから、これからは、いただくばかりではなく、受けた恵みを流していく、与える教会へと変えられて行きたいと願っています。海外日本語教会からも宣教師を送り出せる日が来ることを楽しみにしつつ。



ヘタルの遺した子供たち

安川 圭吾・美穂
タンザニア

以前にニュースで紹介したことがあるクシュブ姉妹のお姉さん、ヘタル姉妹は 1 年前、長い闘病(肺結核)の後にイエス様のもとに帰って行きました。残されたご主人と二人の子供たちの悲しみは計り知れないものでした。ヘタルが天に召されて、遺された二人の子供達のことをずっと気にかかり、みんなで祈っていました。末っ子の娘さんは、お母さんがイエス様を信じていたのに亡くなってしまったことを悲しみ、怒っていました。ヘタルが家中に貼っていた御言葉の紙も全部剥がしたものの、捨てることはできずに取っていたそうです。親戚の人たちは皆、ヘタルがヒンズーの神々を捨てたから死んだのだと罵っており、二人の子供たちもヒンズーの神々を再び拝む様になっていました。クシュブはそんな二人を心配し、ご主人と相談の上、二人を引き取ってタンザニアで一緒に暮らすことにしまし

た。ヘタルのご主人も、タンザニアで仕事を探すことに同意して、後から来ることになっています。そんなわけで昨年 12 月始めに、クシュブは二人の甥と姪を連れてタンザニアに戻ってきました。教会ファミリーもそんな二人の子供たちを抱きしめて温かく迎えました。二人は、お母さんの長い闘病生活で学校にきちんと行けていなかった様で、英語が殆ど分かりません。それでも、クリスマスにはユースグループに加わってダンス賛美を一緒にしました。毎日、みんなで御言葉を聞き、賛美し、英語を習ったり、ケーキの作り方を教えてもらったり。二人とも、ずいぶん元気になって、ふざけたりおどけたりする様子も見られるようになりました。何より「私は大丈夫だ」という感覚、そして二人がイエス様にあって将来への希望を口にするようになったことは、本当に嬉しいことです。ヘタルの子供たちがこれからもタンザニアで暮らすには、いくつかの法的手続きをクリアする必要があります。主の助けがありますように。そして、二人があらゆることを通して、主の愛と真実さを体験していきますように、どうぞ私たちと共に祈りください。(美穂)



冬の出来事と私の役割

長澤久美子

韓国

この冬、義理の姉が教会の牧師宅（女性）に出掛けた時に倒れ脳内出血でした。牧師宅近くにはカトリックの大きな病院があり、救急車でそこに運ばれICUに。ところがコロナにも罹っていることが分かり、隔離されながらの治療となりました。幸い、そちらは大したことがなかったので、脳の治療に集中出来ました。しかし面会謝絶。状態は芳しくなく暫くICUに。手術は危険を伴うため避け、薬での入院治療。なのに食事は受け付けず急に痩せてしまって…。実はその姉もう者です。面会謝絶となると、それも未だ記憶も朦朧としているので、こんな時はとてもかわいそうです。その後自宅の近くの病院にと願い、叶ったもののそれも束の間。そこでも意思の疎通が出来ないと言われ自宅に戻されました。一でも私たちは面会ができる様になり主に感謝—その姉の夫（義兄）は既に6年前に召され、今は息

子二人と暮らしています。旧正月の連休後の母親の見舞いには二人とも勤務で行けず、主人と私で姉を最初に運ばれた遠い病院へ車で。しかしカトリック病院の脳外科の先生は時間を気にせず良く説明して下さい、私たちはとても安心し満足しました。普通大きな病院では難しい事なのに…

良く見ていると私たちの前の人達にも同じように丁寧に接し、説明されていて本当に医師にも病院にも好感と尊敬の念を持ちました。しかし残念なことは場所が遠いので、これからの事を考え、以前7年前に脳外科手術をした病院に移る事にしました。甥達二人は会社員として超忙しいと言い教会に行かず、教会から離れて長くなりました。どうかこの事を通して主に繋がり、この終わりの時に備え、喜びと希望を持って生きて欲しいと願っています。そして義理の姉（勸士）の全き癒しと二人の甥の為に、私達夫婦のお手伝いと通訳、宣教師としてもこの家族に仕えて行けます様に。皆様の変わらぬ愛のご支援と祈りに今日も感謝しつつ。

（文中、耳の不自由な方に対する表記を「ろう者」としておりますが、今後これで統一したいと思います。・・・事務局註）



日本ビジョン教会とKoJaMa

朴ダニエル・任妍貞

韓国

韓国では大型教会で外国語礼拝をするのが流行になった時がありました。英語・中国語をはじめモンゴル語・インドネシア語礼拝などです。その中で数は少ないですが、日本語で礼拝する教会も20くらいありました。日本ビジョン教会で開いたアジアファミリーキャンプをきっかけに東日本大震災の1年後に「絆」という名前の集会を開き、在韓日本語礼拝の牧会者たちの集まりであるKoJaMa（Korea Japanese Ministries Associationの頭文字）が誕生しました。当初は20くらいの日本語礼拝がありましたが、コロナのせいもあり今は10くらいです。

今年1月9日にこのKoJaMaの新年会を持ちました。参加者は日本福音宣教会のイスグ先生、オンヌリ教会の川村先生、キムヨンスク先生、釜山スヨン口教会の犬伏先生、ハレルヤ教会

のチェジョンヒョン先生、ソウル日本人教会の平島先生、サラン教会の子安先生、日本ビジョン教会のイヒョンソン兄と私です。会議の中で3年ぶりに3月12日に311を覚える祈り会を持つことを決めました。午後2時から日本ビジョン教会創立15周年記念礼拝も開きます。私の使命である日韓の教会の架け橋となる目的で、日本ビジョン教会を開拓してからもう15年が経ちます。振り返れば、ここまでやって来られたのはすべて神様の恵みです。途中で挫折しそうなことは何度もありましたが、主の支えと祈ってくださる八尾福音教会とJECの先生方や信徒たち、そしてアンテオケ宣教会と支える会の会員たちによって再び勇気をいただきました。

日本ビジョン教会の礼拝堂は、訪韓する日本の牧師・宣教師にとり霊的な憩いの場となるべく、2008年3月のイースターに開拓して以来、いつも「花嫁を迎える者は花婿です。そこにいて、花婿のそばに耳を傾けているその友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。それで、私もその喜びで満たされているのです」（ヨハネ3:29）の御言葉を握り、当初は3年、在韓邦人宣教のための開拓の道筋をつけたら日本に帰ろうと思いましたが、気がついたら15年の歳月が過ぎていました。（ダニエル）



イエスを知っている

高橋真一・千恵美

モンゴル

正月元旦に千恵美の父が天に召されました。義父は私にとってイテロのような舅でした。信仰者ではない立場から人間の深さを背中で見せて頂きました。禅問答のようなことを言う人でした。結婚直前で献身を考えてもない頃の私に「君には野望があるのぉ」（ビジョンの事？）と将来を知るかのように。ある時は「自分なりに勉強してみたが要するにキリスト教は”宗教”ではないな」私がメンタルを病んだ時も「よく働いたんだ、ゆっくりしなさい」その後、療養三年経過し復帰するときも尚「急ぐなよ、人生何とでもなる」そしてモンゴル宣教に反対する他の未信者の家族に対し「彼らに何も言うな」と抑えてくれたのも義父でした。

その義父が12月初旬、がんステージ4、余命一週間と宣告されました。一切の治療を拒否。「願いは自宅で家族と過ごしたい

だけ。真一君、私の逝く様を見ておきなさい」と。

本人の覚悟と思いを尊重し在宅での看取りに導かれました。医師も「相当な痛みのはず、しかし本人が家族との時間とを希望している中で意識レベルが下がる程の強力な緩和処置は…」ぎりぎりの判断で臨んで下さいました。

3日目「イエス様を信じて下さい」とストレートに言うと、「イエス様の事は知っている」意外な答え。どういう意味？以前に「人生のことは私も分かっている」と返された記憶が甦ります。しかし内側に平安がありました。その夜「あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになります。今から父を知るのです。いや、すでにあなたがたは父を見たのです。」ヨハネ14:7の聖句が示されました。父らしい決心の言葉と確信。翌日、「信じた者は洗礼を受けるのです。受洗しませんか」父は強い語調で「当たり前やないか！」まるで一喝の様。激痛が来ると「薬はいらん。祈ってくれ、お祈りが一番効く」告知から26日間、希望の通りに家族と片時も離れず過ごし平安の内に天に帰りました。主に栄光。最期まで生ききることを教えられています。福音宣教「聖なる野望」で、主と聖徒たちに再会する日まで。（真一）



ルフィジを訪れて

山鋪 岳

タンザニア教育宣教師

今回の長期休暇は色々なところに行き、各地の牧師や宣教師を訪問してきました。まず最初に、12月18日～21日に3泊4日の旅程でルフィジという場所で活動しているベイカー宣教師を訪問しました。彼の子供はHOPACの生徒で、ロッジを経営しながらミニストリーを行なっています。今回はHOPACの先生や生徒とともに計11人で行き、彼らのミニストリーのお手伝いをさせていただきました。地域の村々で炊き出しやスポーツ交流を行ったり、教会を訪問して牧師のために祈りしたり教会学校の手伝いをしたりしました。

行く前のミーティングの中で聞かされたのが、この地域の霊的戦いについてです。この地域はムスリムが99%で、中には移住者を嫌う排他的な人たちもいるみたいで、以前ベイカー氏の土地に住んでいた外国人は、建物をすべて燃やされてしまい村

を出て行ったそうです。そのような中でベイカー氏は、地元住民と対話を繰り返し、様々なプログラムを通して地域に貢献して村人たちとともに良い関係を築いています。そして数少なく孤立している地元教会を支援しつつ、この地で福音を伝える働きをしています。

私たちが訪問した際にも霊的攻撃を感じる出来事がありました。私たちはベイカー氏のロッジに2人1部屋で滞在したのですが、人数の関係で1人のタンザニア人男性の先生が1部屋を1人で使うことになりました。2日目の朝に携帯を確認すると、夜中にその先生からSNSのグループチャットにメッセージが入っていました。「もし起きていたら私のために祈ってほしい。霊的攻撃にあっている」との内容でした。次の日の朝、ミーティングに行くと彼が青ざめた顔でやってきました。話を聞くと、夜中に何かに体を押さえつけられる感覚になったり、部屋の中に黒い影がいるのを感じたりして、怖くてほとんど眠る事ができなかったそうです。夜中に聖書を開いて御言葉を宣言して夜を乗り越えたと話していました。私たちは一緒に彼のために祈りました。幸い次の日からはゆっくり眠る事ができたそうです。



井野先生が事務所に来られました

KoJaMa 牧師の集い

韓国 朴宣教師



新しいファミリーのメンバー望実です

派遣待機中 山中宣教師

久しぶりのB国訪問

B国 小森宣教師



新しい始まり



宇井英樹・由美

国内 国際教会牧会

私たちは第三の宣教地、東京に導かれ、東京インターナショナル・クリスチャン・フェローシップ池袋教会の英語日本語の礼拝を基盤に、国際教会の開拓をしていきます。1月22日に就任式礼拝が持たれ、ミッショナル・インターナショナル・チャーチ・ネットワークの代表であるデイビッド・フレッシュ師がノルウェーから来て、メッセージをして下さいました。また私たちと関わりの深い4つの団体の代表者からのビデオメッセージが紹介されました。

私たちの東京での住まいのため、お祈りくださり感謝します。神様は、私たちが全く予想もしなかった素晴らしいことをして下さいました。日本ホーリネス教団の協力により、同教団東京中央教会の所有する建物に住まわせていただくことになりました。その建物は、元々保育園として使われていたもので、そ

れを経営していた信徒の方が、宣教のために用いて欲しいという遺言とともに、東京中央教会に捧げられたものです。私たちは、長年使われていなかったその建物を修理・改装してオフィス兼住居として整えているところです。これから私たちが奉仕するTICF池袋教会から佐藤先生ご夫妻をはじめ、中国語部メンバーの方々が手伝いに来て下さり、またアンテオケ宣教会の事務局から若林さんがペンキ塗りの助けに来て下さいました。まだ改装工事は続いているのですが、12月中旬からその建物で生活を始めています。

クリスマスにはTICF池袋教会で、クリスマス礼拝とパーティーをして、ノンクリスチャンの友達や普段は来ていない方々を招きました。由美の大学時代の同級生や、前任地で出会い、日本語の聖書の学びに来ていた方も参加されました。由美は日英の礼拝の中でサクスの演奏と証しをし、続くパーティーでは、英樹が証しをしました。12月29日には改装中の我が家で年末のそばパーティーをし、新しい方々も何人か来られました。新しく来た方々がTICF池袋教会につながるように、また新しい地での働きを主ご自身が導いて下さるようにお祈りください。(英樹)

新入会員紹介① イエスは言われた。 「わたしの食べ物とは。」

久米麗

インドネシア

インドネシアの日差しは非常に強く、ヤシやバナナなどの木々は遅く育って実をつけています。日本と違い、過酷な気象条件のなかで遅く育つ様を見ていると、創造主をほめたたえずにはられません。

こちらに来て1月で5か月になりました。私は、日本バプテスト連盟派遣の野口宣教師の教育宣教師として遣わされました。私は、30歳でイエスさまに出会い、バプテスマを受けました。キリスト教とは無縁の家庭で育ち、私が初穂です。その数年後、いつか宣教師となって世界に遣わされたいとの思いが与えられ、献身し東京バプテスト神学校で学び、卒業後は母教会である多摩川キリスト教会に仕えながら、宣教師としての準備をしておりました。これまで、道が開かれようとする、その門が閉ざされると言うことが何度もありましたが、しかし、この地に遣わされるまでの主が下さった試練や鍛錬は、私がイエス様のものとなるための大いなる恵みであり、主のご計画のためであったと今ははっきりと確信しています。

「教育宣教師」は聞いたことがありましたが、その重要性については十分に理解していませんでした。しかし、母教会の前任牧師であった野口先生ご家族と赤ちゃんの時から知っている子どもたちの日本語の学び、日本人としてのアイデンティティの形成の必要を知った時、私の内でこのような思いが起きました。「主よ、世界宣教は復活の主の唯一のご命令です。『全世界に出て行って、福音を宣べ伝えよ』と言われたあなたのご命令に従った先生ご家族を通して、世界宣教が祝福の基であることが証しされますように。あなたによって宣教師の子どもとされた一人ひとりが、世界宣教のご命令を受け取り、いつか自分の使命として握ることが出来ますように。」

世界宣教は全てのクリスチャンに与えられている使命、目的です。しかし、全ての人が出て行くのではなく、出て行く人と送り出す人がいます。そして、それらの中でも働きは様々です。私は、今種蒔く人として置かれているように思います。現地の人との交わりよりも、今は子ども達に仕えること、野口先生ご夫妻に仕えることを1番としています。子ども達との交わりも、この小さく貧しい私に何ができるでしょうか。むしろ、私がたくさんの助けに与っています。しかし主は、そんな私に言われます。「一人の魂を追いかけてほしい。」

イエスは言われた。「わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。」(ヨハネ 4:34)

私の食べ物は、主の御心を行い、主が与えられた働きを為すことです。そうすれば、このインドネシアの木々や植物のように、主が私を支配、統治され、養ってくださり、福音の証として、いつか実が実ると信じます。その実は、内にも外にも実るでしょう。たとえ私がその実の刈り取りを見ることがなくても、主の時に適うことこそが一番善い実となるでしょう。主が置かれた場所であるなら、激しい日照りや雷雨さえも主の養いであり、実が実っていくのです。ですから私たちは、うまずたゆまず主の内において世界宣教のため共に前進して参りたいと願います。



野口宣教師ご一家と





ちえさんの祈りコーナー

長引くコロナ禍と世界中で問題となっている物価の高騰により、この国では多くの人々が生活困窮に直面しています。そのため子供たちさえも学業を中断して仕事に駆り出されています。この国では家族はいつも互いに助け合っているのが当たり前で、それは子供も例外ではないのです。

また、習慣的な偶像崇拜が重んじられ、家族が崇拜する神々に仕えて生きています。そこには巨大な暗闇があります。その暗闇を照らし彼らを救い出すことができるのはキリストの福音だけです。

・暗闇から救い出された人々が喜んで主イエス・キリストを証する者とされますように。

・魂の飢え渴きを覚える人々がまことの神である主イエス様に引き寄せられますように。

・主の憐れみがこの国の人々を覆い、罪からの解放と自由を経験することができるよう。

新入会員紹介② 協力宣教師となって

今西勇太・茉莉

インドネシア協力宣教師

はじめまして。2022年にアンテオケ宣教会の協力宣教師として受け入れていただいた今西勇太と申します。2017年より妻の茉莉と共に、インドネシアへ遣わされ、現在は東ジャワを中心に現地教会開拓と弟子訓練の宣教活動に携わらせていただいています。現在は、日本でビザが下りるのを待っています。今後は2人の子供とともに家族4人でインドネシアへ派遣されることになります。どうぞよろしくお願い致します。

私たちとインドネシアとの最初の出会いは、2014年です。3週間の短期宣教地訪問時に、ムスリムからクリスチャンになった兄弟姉妹の証を聞く機会が与えられました。目が覆われていて真理であるイエス・キリストに出会うことができなくなっているこの国の人々ではありますが、実は内面は真理を求めて渴いている魂である、ということを知りました。「『光が、やみの中から輝き出よ』と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。」(第二コリント 4:6) 彼らの証を聞きながら、彼らを愛し、あわれんでおられる、主イエス様の思いを教えられました。

さらに、この宣教地訪問時、英語キャンプを開催しました。この英語キャンプは、福音を伝えることを目的としたキャンプです。キリスト教のキャンプとした場合、インドネシアの背景では、ムスリムの方々が参加されることはまず期待できません。そこで、英語キャンプを通して、関係を築き、信頼できる友となり、福音を伝えることを狙いとしています。このキャンプを通して、私たちはそれぞれ、高校生に対して、福音を伝える機会をいただきました。おそらく、私たちの話

を聞いてくださった高校生は、尊敬の文化から、福音を聞くことを選択したと思われますが、それでも、彼らが確かに心に渴きを持っており、確かな救いによる平安を求めていることを知ることができました。この経験を通して、主イエス様が、私たちにこの地で仕えるようにと招いておられることを感じました。

このようにして神様は、インドネシア宣教への導きを明確にしてくださり、2017年に夫婦として遣わされました。インドネシアに派遣された当初は、人々に福音を伝え、弟子訓練するために(現地の人々の成長のために)宣教地に来た、と思っていました。ところが、どうやら神様の一番の優先順位は、誰よりも私たち自身を練り、訓練し、主の似姿へと近づかせることにあるのだと教えられています。神様の恵みと力によって福音に生きる者へと成長するプロセスを経験できる恵みに感謝しています。それにより少しでも、パウロが生きたように、私がキリストに倣うようにあなたがたもキリストに倣ってください、というモデルとなる歩みができればと願っています。

ムスリム人口が世界一多い国・インドネシア。彼らは、主に敵対して歩んでいる人々ではなく、真理から目が覆われている人々です。公共スピーカーを使って1日に5回町中にコーランが響き渡っているこの国において、人々の目の覆いが外され、光であるイエス様の栄光が輝く日を心から楽しみにしています。



英語クラブのメンバーの方々と



アンテオケ宣教会会計報告

一般(事務局)会計収支 (2022年10月1日～12月31日)

収入科目	金額	支出科目	金額
一般献金	2,366,152	通信費	69,720
うちクリスマス献金	198,152	出張費	259,310
宣教師・国内スタッフ献金	300,000	交通費	98,670
アンテオケ分担金	480,000	事務費	6,682
		活動費	94,050
		ニュース関係費	601,616
		IT関係費	16,500
		事務所賃借料	189,200
		スタッフ援助費	860,000
		備品費	26,400
		接待費	41,541
		奉仕者交通費他	20,172
		業務委託費	20,000
		図書費	1,088
		慶弔費	10,000
		雑費	13,981
前月繰越	1,542,536	次月繰越	2,359,758
収入合計	4,688,688	支出合計	4,688,688

献金芳名リスト (敬称略・順不同) 計 170 件

教会及び団体

旭川めぐみ アルゼンチン宣教を支える会 (4) アンテオケサポーターズ いこいのある教会
一妻東京 井野師を支える会 (3) 宇井師を支える会 (3) 上田 (兄弟団) 江藤みかを支える会 (2)
浦和福音 大磯キリスト (3) 大野キリスト (3) 貝塚福音 片柳福音自由 (2) 可児福音 (3)
カナンブレイズチャーチ 亀有教会 北見めぐみ キリストの栄光 久遠キリスト 久米麗を支える会 (2)
郡山キリスト (3) 御殿場純福音 堺福音 札幌福音館 (2) さんだグレイス 十字架福音 (2)
鈴鹿キリスト福音 (3) 鈴鹿キリスト (長老) 高橋央也、恵と共に歩む会 (2) 高松シオン (3)
宝塚福音 垂水 (4) タンザニアミッション (2) 千代田福音 都賀キリスト 土崎グローリア 東栄福音
東京若枝 (3) 戸田福音自由 名古屋一妻 (3) 新居浜キリスト 21世紀キリスト (2)
日本イエス教団事務所 (3) 朴師を支える会 (3) 東川口福音自由 ビサイドチャーチ東京 (2) 平塚福音
プラナの会 (3) ホームチャーチライトクロス (2) 本郷台 (3) 前橋キリスト 丸亀聖書 (2)
未伝地ミッションを支える会 (3) 三島真光 南仙台 宮崎北 モンゴルミッションジャパン (2)
八尾福音北九州チャペル 山師を支える会 山形響者キリスト 大和キリスト (3) 横浜金沢文庫
栗東キリスト

個人

石川秀和・里恵子 井野葉由美 (3) 井原敬二 (2) 内村郷美 内山義彦・和子
江田早苗 大矢一英 夫博美 甲斐博 (3) 加々美要 片山春奈 菅野昭子 (3)
栗山伸子 小林宮子 小路伸夫 高井へら由紀 (3) 高山嘉津子 (2)
滝沢久恵 猶原順子 林正敏 藤井三紀子 (2) 星出卓也・薫 (3) 本田義廣 (2)
前田秀文・庸子 松崎ひかり 三浦岸雄 (3) 宮坂玲子 三輪修男・文子 武藤元康
森和亮 矢崎弘志 山下祐弘 (3) 山田初子 匿名 (6)

*事務局からのお願い・・・赤色の払込取扱票による現金でのお振込みが有料となりましたので、可能な方は手数料のかからない「ゆうちょダイレクト」をご利用くださるようお願いいたします。

私たちも世界宣教を応援します！

医療法人オリーブ



大川内科

(院長：大川真理・高知ペンテコステ教会隣接の内科)

礼拝ができる老人ホーム やすらぎの介護



ハレルヤ
晴れる家
堺市内に 6 施設

シャローム
大阪府堺市堺区大仙中町6-24
お問合せは **0120 998-414**



タンザニア 教育宣教師募集

宣教師の子どもたち(中 1、小 4)の日本語教育サポート
特に漢字や作文など、日本語の読み書き
他にも現地教会での宣教師の働きを手伝ったり
希望に応じて様々な奉仕の機会があります
英語はできた方が生活や教会員との交わりが充実しますが、
必須ではありません

短期、長期どちらでも



詳しくはお問い合わせください！

「読者のページ」

● 結祈の祈りの時に長澤先生がご一緒したS姉妹。「独身時代からお祈りしていました」。感謝感激だったそうです。アンテオケ創設期から祈ってくださいいた姉妹でした。

● 去る1月30日の理事会で、台湾宣教をしておられる高井へら・由紀宣教師を協力宣教師として受け入れました。

● 昨年11月末で34年間の長きにわたり韓国宣教で仕えて来られた三輪修男・文子宣教師が引退し、帰国しました。

● 大田総主事との面会をOCC事務所でご希望の方は、お気軽に事務局にお問い合わせください。

《事務局スタッフからひとこと》

● 45周年を迎え振り返る時、「始まりはインドネシア」でした。そして現在再びインドネシアの風が吹いています。複数の宣教師が送られ、5月、6月に出発を予定しています。お祈りください (高山)

● 来る5月にはコロナに関する規制がほぼ撤廃され、教会活動もかなり自由に行えるようになると思います。その一方、新たに生まれたオンラインを活用した礼拝や集会はそのまま残した方がいいですね。コロナが遺した数少ないメリットとして。(菅野)

● お正月休みにamazon primeで映画「パディントン」を観ました。異文化コミュニケーションの秀逸な寓話で、学ぶことがたくさんありました。熊のパディントンのように優しく柔らかな心で「多様な文化を持つ民」と信頼関係を築いていきたいです。(佐藤)

● 昨年2月から事務局での働きに加わらせて頂き、あっという間に1年が過ぎました。これからも主の宣教のみわざに触れられる恵みに感謝して仕えていきたいと思っています。(若林)



● 次号二四二号は、二〇二三年六月発行の予定です。

事務局便り